

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	宮 崎 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	川南町立唐瀬原中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
	3	3	3	1	10	20
	108	107(1)	105(2)	(3)	320	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力の向上をめざした学習指導の創造
 ~きめ細かな指導による基礎・基本の定着を通して~

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

きめ細かな指導の在り方 ~ 全教科
 学力の向上は特定の教科だけでなく全ての教科が必要であるため。また、全職員の指導力向上を図るため。

少人数指導・習熟度別指導の在り方 ~ 英語科、数学科
 生徒の学力に差が出やすい教科であるため。また、加配教員等の導入で少人数指導の実績があるため。

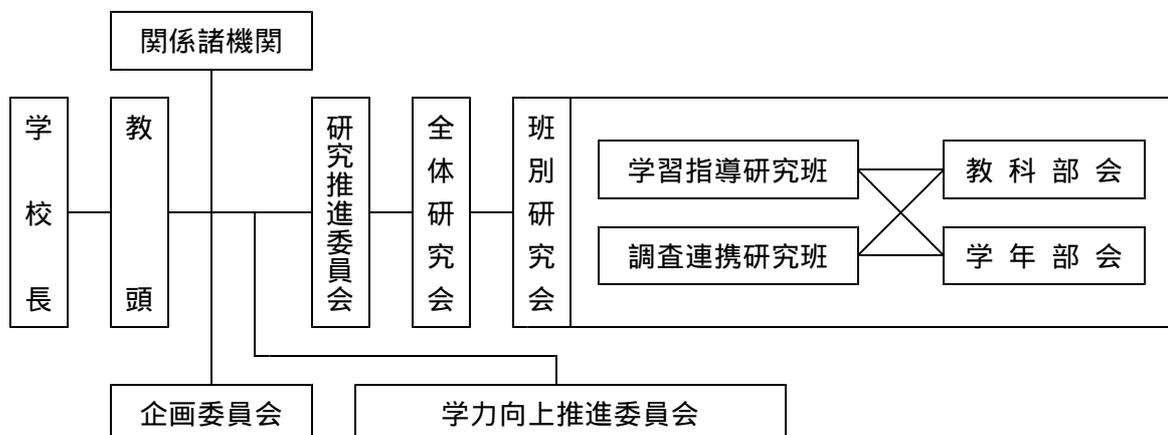
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>(1) 各教科におけるきめ細かな指導の充実</p> <p>(2) 望ましい学習環境づくりや基本的な学習態度の確立</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>生徒の学力や特性を把握して個の実態に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫改善を図ることで、生徒一人一人の学習意欲が向上し、確かな学力を身に付けた生徒が育成できるであろう。</p> <p>○ 研究の内容・方法</p> <p>(1) 習熟度別、課題別編成による少人数指導及び個に応じた指導方法・指導体制の在り方</p> <p>ア 数学科・英語科を中心に、チーム・ティーチングや少人数指導等の実践を通して、基礎・基本を身に付けさせる指導方法・指導体制の在り方を研究する。</p> <p>ウ 各教科の指導におけるきめ細かな指導の在り方を研究する。</p> <p>(2) 指導と評価の一体化、客観的データに基づく指導方法・指導体制の在り方</p> <p>ア 実施可能で指導の改善に生きる評価の在り方を研究する。</p>
--------	--

平成15年度	<p>(3) 小学校，家庭及び地域との連携による学力向上の在り方</p> <p>ア 川南町立川南小学校との授業参観・授業交流を実施し，基礎学力の定着を図るための連携の在り方を研究する。</p> <p>イ 家庭において，学びの機会の充実を図るための連携の在り方を研究する。</p> <p>(4) 学力向上のための，特色ある学校づくりの在り方</p> <p>ア 学びの意欲を高める学業指導・学習環境の在り方を研究する。</p> <p>イ 「基礎学力(読・書・算)」の定着を図るための指導体制の在り方を研究する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>(1) 各教科におけるきめ細かな指導の充実</p> <p>(2) 望ましい学習環境づくりや基本的な学習態度の確立 研究の見通し(仮説) 生徒の学力や特性を把握して個の実態に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫改善を図ることで，生徒一人一人の学習意欲が向上し，確かな学力を身に付けた生徒が育成できるであろう。</p> <p>○ 研究の内容・方法</p> <p>(1) 習熟度別，課題別編成による少人数指導及び個に応じた指導方法・指導体制の在り方</p> <p>ア 数学科・英語科を中心に，チーム・ティーチングや少人数指導等の実践を通して，基礎・基本を身に付けさせる指導方法・指導体制の在り方を研究する。</p> <p>イ 各教科の指導におけるきめ細かな指導の在り方を研究する。</p> <p>(2) 指導と評価の一体化，客観的データに基づく指導方法・指導体制の在り方</p> <p>ア 実施可能で指導の改善に生きる評価の在り方を研究する。</p> <p>(3) 小学校，家庭及び地域との連携による学力向上の在り方</p> <p>ア 川南町立川南小学校との授業参観・授業交流を実施し，基礎学力の定着を図るための連携の在り方を研究する。</p> <p>イ 家庭において，学びの機会の充実を図るための連携の在り方を研究する。</p> <p>(4) 学力向上のための，特色ある学校づくりの在り方</p> <p>ア 学びの意欲を高める学業指導・学習環境の在り方を研究する。</p> <p>イ 「基礎学力(読・書・算)」の定着を図るための指導体制の在り方を研究する。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 生徒の変容

各種学力調査の結果から、多少ではあるが学力の向上が見られるようになった。これは、望ましい学習態度の指導や細かな学習支援、教科指導における基礎・基本の定着の取組の成果と考えられる。

生徒会役員を中心とした委員会活動が主体的・自主的になった。これは、生徒の自尊感情の高まりと生徒間の支持的風土の醸成によるものと考えられる。

(2) 教師の変容（指導方法・指導体制）

「きめ細かな指導」をめざして、全職員が指導方法・指導体制の工夫・改善に取り組むことができた。特に、少人数指導を計画的に行っている英語科と数学科については、コース選択の在り方や、それぞれのコースの目的に応じた指導方法の在り方を工夫・改善することで、少人数による指導が効果的に行われるようになった。また、他教科についても研究授業を定期的実施することで、その教科の特性に応じた指導の在り方を探究するようになった。

ソーシャルスキル学習やフラワーアレンジメント講習会などを通して、授業づくりの基礎となる人的・物的な学習環境の充実を図ろうという気運が高まってきた。校舎内の掲示もきめ細かな配慮がなされ、特色ある設営が見られるようになった。

川南小学校との授業参観や授業への参加を通して、基礎学力定着のためには小学校と連携が必要であるという意識が高まった。また、小学校ならではのきめ細かな指導を見ることで、今後の学級経営や指導方法改善の参考になったと思われる。

(3) 家庭の変容

学校における学力向上の取組をさまざまな機会に伝えてきたことで、保護者の意識も高まりが見られるようになった。特にPTAに学力向上のための組織「からせ共育委員会」を立ち上げ、家庭学習の支援の在り方についての具体的な活動内容が話し合われるなど実践的な取組が見られるようになった。

2 今後の課題

(1) 学校における学習指導について

授業における「きめ細かな指導」の在り方を工夫・改善していくとともに、学んだ内容を確実に定着させるための機会(鍛える時間・場所)を設ける必要がある。

少人数指導においては、どのような機会にコース選択の機会を与えるか研究を進めるとともに、生徒のコース選択能力の育成を図らなければならない。

問題解決的な学習の在り方について継続的に研究していかなければならないが、学習問題の設定や指導過程など教科間の共通化を図る必要がある。

指導と評価は一体であるという考え方は定着してきた。また、教科年間指導計画にも評価基準を明記し、到達できない生徒への手立ても明記することができた。今後は、これを活用するとともに、評価を生徒と保護者も共有し、その後の取組に活用できるような方策を考えていかなければならない。

(2) 小学校や家庭との連携、情報の発信について

授業参観や交流授業、TTを積極的に行い、小・中学校が連携して指導方法の改善に取り組んでいく必要がある。

また、望ましい生活習慣(家庭学習の在り方も含む)について検討し、家庭や地域に一体となって呼びかけていく必要がある。

PTAの学力向上組織との連携を図るとともに、各家庭に対しても情報の提供を積極的に行い学力向上への協力を呼びかけていく必要がある。

研究の進捗状況に応じてホームページの掲載内容を随時更新し、外部からの意見・助言も参考しながら研究内容の修正・改善を図っていききたい。

学力把握のための学校としての取組

定期的な基礎学力テストの実施(年5回)と結果の分析(全学年)
基礎学力調査の実施と結果の分析(2年)
標準学力検査(NRT)の実施と結果の分析(全学年)
目標基準準拠検査(CRT)の実施と分析(1・2年)
漢字・計算力・英単語のコンテスト(各教科年2回)の実施と結果の分析(全学年)
家庭学習に関する実態調査の実施と結果の分析(全学年生徒及び保護者)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表の開催
ホームページの随時更新
家庭向けリーフレットの作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 あり なし